

平成21年度第1回平塚市美術館協議会 会議録

開催日時	平成21年8月21日(金) 14時～15時35分
開催場所	平塚市美術館 研修室
出席者	委員 山梨委員、木下委員、今関委員、平野委員、望月委員、熊澤委員、大橋委員 事務局 金子教育長、栗原社会教育部長、草薙館長、小澤副館長、土方館長代理、 伊藤主管、小池学芸員、勝山学芸員、江口学芸員、安部学芸員、野村主査
傍聴者	1名

会議(次第に沿って小澤副館長が進行)

- 1 開会 栗原社会教育部長あいさつ
- 2 委嘱状の交付 金子教育長が委嘱状を交付
- 3 金子教育長のあいさつ
- 4 委員紹介(進行が各委員を紹介)
- 5 議題

(1) 正・副会長の選出について

会長が山梨委員、副会長に滝波委員に決定。

(会長・副会長席に移動。なお、滝波委員は欠席。)

(2) 平成21年度美術館事業概要について

下記の項目について事務局から説明を行った。

- ① 展覧会－8月までの実施状況と今後の予定
- ② 教育普及事業－実施状況や今後の予定
- ③ 施設管理－展覧会以外の実施事業、館内施設の利用状況、管理設備等の状況などを説明

(質疑応答)

・作品の購入について

(質疑)－作品の購入は、今年になるのか？また、今後も購入は続くのか？

(応答)－来年度にむけて予算計上する。また、今回たまたま特定目的の寄附行為があった結果で、その後はわからない。

(意見)－展覧会の開催をきっかけに作品の寄贈・寄託・購入の機会に恵まれるので、作品購入費をゼロにしないほうがよいと思う。

(応答)－美術館の業務に作品の貸借というものがあるが、当館の貸出が少ないということは、他館が借りたいと思う作品がないということでもあるので、なんとか魅力ある作品の購入につなげたい。

・寄付行為について

(質疑)－作品購入の為に、市民からの購入資金の寄付として基金方式があるが、その基金方式が市民に知られていないのではないのか。また、PR不足ではないのか。

(応答)－平塚市では、文化振興基金の1項目として美術品購入という項目がある。確かに美術基金という名称で周知ができれば良いが、独立した基金とするには運用面で難しい。

・教育普及事業について

(意見)－いわさきちひろ展で中学生ボランティアを募集し、活動したと聞いたが、学校内では、「ボランティアを体験したい」と思っている生徒は多いと聞いている。子どもたちの美術館を利用するプログラムや学習プログラムを開発して、ぜひ学校に教示していただきたい。

(質問)－上記に関連して、教育普及事業の広報の方法はどうやっているのか。

(応答)－教育普及事業の内容や種類を変革しているところであり、長期(年次)的に計画を決められないのが現状である。一方、こども家庭課の子ども支援事業、小中学校への周知方法が確立、対象年齢を分けた講座の打ち方を試みて、幅広い年齢層に参加してもらえるようになった。今後は、高校生への周知方法を工夫したい。

・学校と美術館の連携及び学校側からの美術館の活用について

(意見)－学校としても教育の一環として美術館を活用しきれていないのは事実である。絵の背景・意味・社会的条件、資料性の高さ、セラピーとしての絵画を教えたい、伝え

たいという気持ちがあるので、ぜひ、連携していきたい。

(質疑)－上記に関連して、高校生の無料観覧日(第2・4土曜日)はどのように周知しているか。

(応答)－学校へのポスター・チラシ等の送付により周知している。

(意見)－多分、まだ知らない子どももいると思うので、周知に努めてほしい。また、私立高校にも周知し、普及に努めてほしい。

(質疑)－小学校4年生は、校外学習で博物館のプラネタリウムに来ることになっているのであわせて美術館を見学するようにしたい。また、子どもたちにわかるような絵画を1点だけ展示するようなことはできないか。

(応答)－1点だけの展示コーナーの設置は当館では、難しい。ただし、来年度の展示計画が決まり次第、各学校に周知できるように機会をとらえたい。

(意見)－ヨーロッパだと高校生の夏休み時に美術館や博物館を見に行くことを義務化している国があるが、学校単位でもそうしたことはできないか。

(意見)－学校側からの働きかけが必要であるので、今後の課題だと思う。

・若年層への働きかけ

(質疑)－学生が来たがる企画(事業)を開催できないか。

(応答)－たとえば、この夏の山本直彰展では、作家自らが子どもたちに手ほどきするワークショップを行った。また、ちひろ展でも、いわさきちひろの技法を使った缶バッジ制作のワークショップで中学生ボランティアを募り、ワークショップのお手伝いをしてもらった。今後もこうした企画を取り入れていきたいと考えている。

・広報について

(質疑)－年々観覧者数が増加(回復)する傾向にあるが、広報・宣伝がいまいちのように感じられるが、その点はどのようにしているか。

(応答)－当館には広告宣伝料が一切ない。予算計上しても、なかなか事業化できない時勢でもある。広告料がかからないようにプレスリリースやミニコミ誌・インターネットへの情報提供を行っている。また、ちひろ展では、新聞社やJR平塚駅の御協力も得られた。こうした工夫で何とか市民へ浸透させていきたいと考えている。

(3) その他

特になし。

7 閉会 草薙館長のあいさつ

次回の協議会は22年3月下旬に予定。

以 上